

ATC 施設利用・共同開発研究 成果報告書

国立天文台先端技術センター センター長 野口 阜 殿

下記のとおり施設利用の成果を報告します。

ふりがな： みやた たかし
代表者氏名： 宮田隆志

③所属機関、部局：
東京大学大学院理学系研究科天文学教育研究センター

研究課題名：地上大型望遠鏡用中間赤外線観測装置 MIMIZUKU の開発

利用期間：H29年 4月 1日 ~ H30年 3月31日

利用者リスト

宮田隆志、酒向重行、上塙貴史、大澤亮、内山允史、山口淳平、吉田泰（東大天文センター）

研究開発の成果（ATC 施設利用との関連を具体的に記述してください。）

・ MIMIZUKU 搭載中間赤外線用光学部品の評価

MIMIZUKU 搭載の光学部品として使用する窓材・フィルターの測定評価を行った。測定には ATC オプトショップの分光光度計 SolidSpec-3700 およびフーリエ変換分光器 FTIR410 を利用した。

・ MIMIZUKU 冷却動作実験

MIMIZUKU の冷却動作実験の際に必要となる予冷用の液体窒素として、ATC の液体窒素施設を利用した。

施設利用が謝辞等に記された学術論文など（資料を添付してください。）

先端技術センターの利用設備・実験室等の利用した物品を具体的に記入してください。マシンショップへ依頼したリスト・利用した測定器・CAD 等について記入してください。）

オプトショップ

・ SolidSpec-3700, FTIR 410

液体窒素

その他、実験時にエレキショップの部品を一部お借りしました。

先端技術センターの施設への要望等ありましたら、記入してください。